令和５年度　児童相談所関連研修

# 子ども家庭支援センター職員（１～２年目）

虐待による死亡事例のうち、０歳児の割合は約５割です。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援やアウトリーチなどを通じて、妊娠や子育ての不安、孤立などに対応し、児童虐待のリスクを早期に発見・対応することが求められています。区は虐待対応の第一義的な相談窓口であり、関係機関との連携・調整役となる子ども家庭支援センター、子ども家庭総合支援拠点の重要性は一層増しています。

本研修は、子ども家庭支援センター等に勤務する職員を主な対象として、要保護児童対策地域協議会の運営や児童虐待通告の初期対応等、子ども家庭相談に関する基礎力と実践力を養う内容となっています。

**日　程**　５月２５日（木）、２６日（金）【２日間】

**場　所**　外部会場（受講決定通知にてご案内します。）

**ねらい**　すべての子どもとその家族及び妊産婦に対し、地域を基盤とした支援を行うため、ソーシャルワーク（実情把握、情報提供、相談対応、総合調整）に関する実践力の基礎を養う。

**対　象**　子ども家庭福祉・母子保健等に携わる職員【定員：６０名程度】

**カリキュラム**　次ページに掲載しています。

【問合せ先】特別区職員研修所　教務第２課　児童相談研修係
電話：０３－６２６１－１５７８

| ５月 | 時間 | 教科目・講師（敬称略） |
|---|---|---|
| ２５日<br>（木） | ９：００～<br>１７：００ | **要保護児童対策地域協議会の運営（講義・演習）**<br>**DReam：保護者も関係機関も寄り添って解決する支援のしくみ（講義）**<br>神奈川県　大和綾瀬地域児童相談所　子ども支援課　職員<br>【講師より】<br>児童家庭相談の業務は法律や通知等で比較的細部まで決められています。<br>それでも、通知に沿って支援しようとしたとき、私たちは、少なからず戸惑うことがあります。<br>保護者を目の前にして、どんな言葉なら保護者は自らやる気になり「話せてよかった」と思うのか。ケース会議で、どんな進行なら参加者は自分の役割として積極的に解決に取り組み「会議をしてよかった」と思うのか。<br>どちらの答えも、私たちの言葉（セリフ）しだいです。<br>それから、言葉（セリフ）を選ぶ意図・構造が大切です。<br>研修は、組織の運営も、ケース家族への支援も、活用できる多数のセリフを例示し、明日から使える実践的な学びを大切にしています。 |
| ２６日<br>（金） | ９：００～<br>１２：３０ | **通告ケースの初期対応（講義・演習）**<br>大田区　こども家庭部　子育て支援課　職員<br>【令和４年度受講生の感想】<br>・４月に入職し徐々に慣れてきた頃ではありますが、まだ不慣れな部分が多いため、初期対応についてわかりやすく解説していただき大変勉強になりました。事例を用いての演習では、区によって動き方が異なることがわかり、また、複数人で意見を出し合う重要性も感じました。今後の業務に活かしていきたいと思っております。 |
| | １３：３０<br>～<br>１７：００ | **子ども家庭支援センター及び子ども家庭総合支援拠点の役割（講義）**<br>西南学院大学　人間科学部　社会福祉学科　教授　安部　計彦<br>【令和４年度受講生の感想】<br>・制度の背景、現在の課題、動きなどがよくわかりました。今の課題と取り組むべきこと、今後の変化の見通しも考えることができました。<br>・福岡市や他の自治体の良い実績などの話も織り交ぜながら講義していただいたため、とても参考になりました。 |
| 計 | ２日間（１４時間） | |